

公務災害防止事業の推進

▶ 安全管理セミナーを実施して ◀

岩手県一関市消防団

1. はじめに

一関市は、岩手県の南端の北上川中流域に位置し、南は宮城県、西は秋田県と接し、交通面では、岩手県の南玄関口となっており、首都圏から450kmの距離で仙台と盛岡のほぼ中間に位置し、交通と経済の中間拠点としての役割を担っています。

市の総面積は1256.42㎡、総人口120,028人(平成29年4月1日現在)となっており、天然記念物の奇岩甌穴きがんおうけつの名勝「巖美溪」、日本百景で両岸に隣接する屹立絶壁の名勝「狛鼻溪」げいびけい、名湯の一関温泉郷を有し、春の新緑、秋の紅葉など四季の変化が美しい国定公園「栗駒山(須川岳)」をはじめ、豊かな自然に囲まれています。

また、当市を中心とする北上高地が、国際リニアコライダー(I L C)の国内建設候補地に決定しており、科学技術分野において世界をリードする最先端の研究都市を目指して取り組んでいます。さらに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、廃棄小型家電から回収した金属でメダルを作る「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」を市民運動として展開しています。

2. 消防団の沿革及び組織

当市は、平成17年9月20日に、隣接する1市4町2村が合併。さらに、平成23年9月26日に1町を加え、新一関市消防団が誕生しました。平成29年4月現在、一関市消防団は28分団、140

部、実員数2,672人(うち女性消防団員46人)、普通消防ポンプ車41台、小型動力ポンプ付積載車135台となっています。



3. 安全管理セミナー開催に至った経緯

昨年度末に消防団幹部(分団長以上)が4年の任期を迎え、退団者121名に対し、入団者が57名となり、新規入団者が多数となりました。また、過去5年に9件の公務災害が発生していることから、これを機に安全管理セミナーを開催することとし、消防基金からS-KYT講師をお招きして講義を頂く運びとなりました。

4. 消防団員安全管理セミナーの様子

平成29年6月18日、S-KYT指導員の加藤豊明先生に遠路お越しいただき、千厩町農村改善センターにおいて安全管理セミナーを開催し、消防団長以下131名が参加しました。

セミナーは、「一関市消防団ゼロ災でいこう ヨシ!」、「今日も元気で消防団活動 ヨシ!」、「一人ひとり大切な団員 ヨシ!」と参加者全員によるスローガンの一斉指差し唱和で始まり、公務災害の発生状況、予防安全、事故の予防策、教育・訓練、機械器具整備、事故後の対応及び東日本大震災からの教訓と安全確保について、加藤先生から経験に基づく講義を懇切丁寧かつ熱くご指導いただき、受講した団員も、貴重な講義を真剣に拝聴していました。



参加者からは、講義内容が分かりやすく非常に有意義な講義であるといった声や、活動現場に潜む危険を瞬時に見抜く力を養うためS-KYTを実践したいなどの意見が多数寄せられ、消防団員の安全管理に対する意識が、より一層、醸成されたものと確信しております。

5. 今後の取組

今後は、今回のセミナーを活かし、消防団員の公務災害ゼロを目指し、これまでに発生した公務災害やヒヤリハット事例を消防団で共有するなど、安全管理について機会を捉え広めていきたいと考えます。

今回は、安全管理セミナーを依頼しましたが、参加した消防団員からのS-KYT研修を望む声が多く、次回は、ぜひS-KYT研修を開催したいと思います。

